

令和5年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(平石地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

<p>令和5年度 第6回 まちづくり懇談会《平石地区》実施結果報告書</p>
--

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《平石地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 令和5年10月6日（金）午後6時30分～午後8時00分
- 2 開催場所 平石地区市民センター
- 3 参加者数 53人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，平石地区市民センター所長，道路建設課長，広報広聴課長

5 懇談内容

- (1) 地域代表あいさつ 平石地区まちづくり協議会 会長
- (2) 市長あいさつ
- (3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	市道305号線改修工事について	道路建設課
2	児童の安全な通学路の確保	LRT管理課，学校健康課，技術監理課
3	東部総合公園内に設置される野菜直売所について	NCC推進課

(4) 自由討議

No.	要 望	所管課
1	LRTの有効利用と地域観光資源の活用について	農業企画課、道路保全課、交通政策課
2	土砂，大雨・洪水気象情報に適合した防止行動について	危機管理課
3	平出工業団地公園について	公園管理課
4	辰街道，新4号線と岡本駅を結ぶ循環バス計画	交通政策課
5	平石地区の脱炭素社会を目指し全国に先駆けたモデル地区を目指して	環境創造課，交通政策課

(5) 来賓あいさつ
市議会議員 郷間 康久 氏

(6) 市長謝辞

■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	市道305号線改修工事について
-----	-----------------

現在、鬼怒中学校や平石北小学校の通学路になっている「市道305号線」の歩行者や自転車の安全確保のための道路改修工事については、以前より北組自治会より宇都宮市に対して、何通もの依頼書や要望書を送ってきた。

そのような中、市道305号線の一部については、通学路の安全対策として道路改修工事が行われたが、依然として危険箇所が残っている状態であり、地元住民からすると工事の進捗は半分にも達していないのではないかと感じている。また、約2年前に行った道路側溝の設置を最後に、中途半端な状態で工事が止まっている。道路が狭い場所や歩道がない場所、雨の日には水たまりができる場所などがあり、登下校中の児童・生徒が車と接触しないか大変心配である。

そこで、2点伺う。

市道305号線の道路改修工事は、なぜ中途半端なまま危険な状態で放置されているのか、理由を聞かせていただきたい。

また、この道路改修工事の完成予定について聞かせていただきたい。

地域住民また学校、防犯会としても、一日も早く安心・安全な通学路になることを願っているのです、どうかよろしく願います。

回答	所管課：道路建設課
----	-----------

【市長】

平石地域の皆様には、子どもたちの安全・安心、そして通学においても御指導いただき、感謝申し上げます。

まず、御指摘いただいた市道305号線であるが、3つの工事区間（真ん中が第1整備区間、西側が第2整備区間、東側が第3整備区間）に分けて整備している。【位置図をスクリーンに映して説明】

市道305号線は、新4号国道と辰街道を東西に結び、鬼怒中学校や平石北小学校の通学路にもなっている。安全・安心な通学路を確保していかななくてはならないと強く思っているところであり、この道路の改良については、3つの工事区間において、それぞれの用地取得の割合に応じて進めている。

まず、新4号国道から宇都宮テクノ街道までの区間のうち、第1整備区間（宇都宮テクノ街道側）については、既に車両と歩行者を分離する境界ブロックを設置した。幅員約2メートルの歩行空間を確保している。

第2整備区間（新4号国道側）については、区間は一番短い部分であるが、用地取得に大分時間を要している。そのような状況の中で、路肩のカラー化などの安全対策を行っているが、地権者の方々の御協力をいただいて、早急に進

めていきたいと思う。

平石北小学校から一番近い、辰街道から宇都宮テクノ街道までの第3整備区間については、用地取得の状況に応じて歩行空間を確保する工事を進めてきた。既に用地取得が完了していることから、今年度中には、第3整備区間の全区間において幅員約2メートルの歩行空間の確保を行い、区画線、ポストコーンなどの安全対策を実施していく。

また、第1整備区間については、車両の円滑な通行に必要な幅員の確保、第2整備区間については、東西の円滑な通行及び歩行空間の確保に向けて、地権者のご理解をいただき、順次、用地の取得に努めているところである。

今後とも、残りの部分についてしっかりと進めていくとともに、歩行者等の安全確保に向けた段階的な取り組みを順次行いながら、早期の全体完了を目指していく。

皆様、地域の方々に、引き続き御理解と御協力をお願いしたい。

再質問	市道305号線改修工事について
------------	------------------------

辰街道から宇都宮テクノ街道までの第3整備区間が、2年も工事が中途半端になっているので、ここがどうなるのか、私は知りたかった。他の区間は地権者の絡みなので仕方がないが、この区間は、子どもの通学路であるのに大変危険で、雨が降ると、車が通って水がかかるような状況である。

回答	所管課：道路建設課
-----------	------------------

【市長】

本年度から準備を進めているので、来年度中には整備をしていきたい。

■地域代表意見2（要旨）

テーマ	児童の安全な通学路の確保
------------	---------------------

LRTの運用が開始されて、平石中央小学校の周辺も大きく環境が変わり始めている。

通学路によっては、車の交通量が増え、子どもたちの安全の確保が難しい箇所がある。

特に、平石停留所と平石中央小学校前停留所の間にあるトンネルは、トンネルの幅が非常に狭く、歩行者専用の歩道もなく、非常に危険な通学路となっている。小学校の先生方・児童の保護者・地域住民の皆様も、このトンネル内の

安全確保が重要であることを認識されている。

通学時間帯には、先生、保護者・地域のボランティアの方にも御協力いただき、安全な対策を実施しているが、それでも十分な安全確保することは難しい状態である。

通学時間帯の自動車進入禁止等の対策も行っているが、子どもたちの安全を守るためには、不十分であると思う。

そこで、1点要望する。

今あるトンネルの幅を広げていただき、歩道を確保し、子どもたちが毎日安全に安心して通学できる通学路の整備を強く要望する。

引き続き、子どもたちの安全は、保護者をはじめ学校の先生方・地域住民の皆様にも御協力いただき守っていくが、市にも御支援をいただき、子どもたちの安全と命を守っていききたいと考えている。

回 答	所管課： L R T 管理課， 学校健康課， 技術監理課
------------	-------------------------------------

【市長】

小中学校の登下校時の安全の確保であるが、児童生徒が安心して学校生活を送る上で重要であることから、警察や道路管理者等を交え、毎年実施している「通学路合同点検」をはじめ、随時保護者の皆様や地域の方々からの日常的な御意見・相談に対応させていただいている。

また、平石中央小学校周辺の安全対策であるが、通学路における歩道整備や信号機の設置、また安全教育の実施などの対策を講じているが、さらなる安全対策として「速度を落とせ」などの路面標示またカーブミラーの設置、交通規制の見直しを実施している。

御要望いただいたトンネルの拡幅であるが、「L R T 事業における平石中央小学校児童安全対策等検討協議会」においても、御意見をいただいている要望である。

トンネルを拡幅して、歩道と車道を分離して道路整備するということであるが、長期間に及ぶ国道の通行規制また既存のトンネルの通行止めに伴う迂回など、周辺地域の方々に大きな影響があるものと考えている。

そのため、先月の協議会において、既存のトンネル内へ縁石を設けて、歩行者と自動車等を分離する道路整備を行うとともに、車両に向けた安全通行の予告の標識や速度抑制の路面標示で注意喚起を行い、早期に安全を確保する取組について意見交換を行い、工事の実施に向けた準備を、今進めているところである。

また、L R T 沿線の通行規制であるが、通学路の安全を確保するための効果的な通行規制について、交通管理者である警察と市が連携・協力を図って、実施に向けた準備を進めているところである。

今後とも、子どもたちが安心して通行できる環境整備に努めるとともに、広

報紙また動画，SNS等による交通ルールの周知徹底など，より多くの皆様が安全・安心に御利用頂けるよう，LRT沿線のみならず，様々な地域の環境づくりに，今後も取り組んでいく。

再質問	児童の安全な通学路の確保
------------	---------------------

今検討中で進めていただいているものと思うが，毎日子どもたちが通学のために使っているところであるので，ぜひ早く対策の方を進めていただきたい。

回答	所管課：LRT管理課
-----------	-------------------

【市長】

このように，縁石を作って，その上に赤いポールを作るということで進めていきたい。【イメージ図をスクリーンに映して説明】

■地域代表意見3（要旨）

テーマ	東部総合公園内に設置される野菜直売所について
------------	-------------------------------

平成30年度のまちづくり懇談会において、「平出町トランジットセンター付近の開発に伴う野菜直売所の開設」を提言した。市からは「素晴らしい発想であり，平石地区の農産物を食べていただくことで，地産地消・地元農家の所得向上・農家の継承にもつながる。今後，平石地区の意見を聞きながら進めていく。」という誠意ある回答をいただき，地元直売所を運営している農家からは，称賛の声が上がった。

平石地区において，農業経営者が高齢化していく中で，新たに異業種から3名の女性が平石地区で就農を開始し，現在2年目の営農に入っている。

このような変化が新たな刺激となり，地域の人づくり，環境づくりを支えていくと思うので，地元農家の後継者が平石地区の将来に希望を持てる野菜直売所の開設は必要であると考えます。

平成30年度のまちづくり懇談会での回答における「(平石地区の)皆さんと一から積み上げていき，平石地区が発展する。そして宇都宮がその波及効果によって発展できていく。」との言葉どおり，東部総合公園内に，平石の野菜を並べられる野菜直売所が開設されることを期待している。

そこで，1点お願いし，1点要望する。

この直売所について地元の平石の農家等への配慮はどうか，平石の農家等が直接参加するためにどのような方策が検討されたのか，お聞かせいただきたい。また，直売所の開設に向けた進捗状況について，説明会の開催など，地

域住民への説明の機会を作っていただきたく要望する。

回 答	所管課：NCC推進課
------------	-------------------

【市長】

東部総合公園整備事業については、皆様から多くの御意見をいただきながら進めてきたところであり、冒頭でも説明させていただいたが、この公園は、LRT沿線の新たな結節点であるとともに、宇都宮市の東部地域の新たな拠点として整備していきたいと考えている。

つまりは、LRTをただ整備するのではなく、それぞれの地域が最大限生かされ、地域に恩恵がある、そのような施設整備を進めていきたいと考えている。

そのために、民間活力を最大限活用するためにPark-PFI制度を活用し、スケートボードなどのアーバンスポーツ施設を核に、子どもから高齢者まで誰もが楽しめる芝生広場や遊具などを備え、地元農産物の販売や地元農作物を活用したカフェなどの機能を導入することとした。また、平石地区の活性化にもつながる、これまでにない都市公園とすることを考えている。

本公園の整備にあたっては、地域振興や地産地消推進の観点から、地元の農産物を積極的に活用することが重要であると考えている。そのため、これまで平石地域まちづくり協議会や平石地区活力あるむらづくり協議会の皆様の御意見を伺ってきた。

こうした地域の皆様からの御意見を踏まえ、事業者の公募においては、地元農産物の販売やカフェなどの飲食などの機能の導入に向け、平石地区をはじめとする地元農産物の積極的な活用と、地域と連携したイベントの実施などを募集要件として、本年3月に公募を開始したところである。

こうした中、8月末には、2つのグループから応募があり、導入する飲食などの店舗における地元農産物の販売や食材としての活用など、地域の活性化等に寄与する提案があったところである。今後はこれらについて、外部有識者からなる事業者選定委員会において審査を行い、11月下旬には、優先交渉権者を選定する予定となっている。

その優先交渉権者が選定された後は、速やかに、地域の皆様に、事業内容について御説明をさせていただくとともに、地元農産物の活用やイベント等への参画などの方策について、選定事業者とともに、地域の皆様との意見交換の場を設け、様々な御意見をいただき、それらをどんどん膨らましながら、より良いものに作り上げていきたいと思っている。然るべき時期になったら御連絡をさせていただくので、御協力をお願いしたい。

■自由討議（要旨）

発言 1 LRTの有効利用と地域観光資源の活用について

今年の8月26日、待ちに待ったLRTが開通となり、大変喜んでいいる。地元でも非常に盛り上がり、当日を迎えたところである。また、テレビでは予想以上の人が乗っているとの報道もあり、非常に安心している。しかしながら、LRTが珍しいということで、今は多くの人々が利用している状況かと思うが、先々を考えると、利用者は、周辺の高校への通学や清原工業団地等の会社への通勤の方が大半を占めるのではないかと思っている。我々地元の人間としては、ぜひLRTを成功させてもらいたいので、もう少し一般の人が乗れるような何かができないかということで、今回提案させていただく。

私自身も、宇都宮市の河川愛護会に属して、「平石地区鬼怒川カワラノギクを守る会」で、鬼怒川での環境保全活動や、水生生物や植物・昆虫などの観察会などの様々なイベントを開催して人を集めているのだが、これまでは、なかなか不便で来る人も苦勞していたことがある。今後は、LRTを利用して、鬼怒川の自然を楽しむ人をどのように増やしていくか、我々も市と一緒に考えていく必要があると思っている。

そのような中で、柳田緑地公園や鬼怒川で釣りをする人がLRTを利用する機会が増えるよう、特に良いと思う2点を提案したい。

1つ目は、平石地区はLRT沿線に農地がたくさんあり、LRTに乗ってみても、農地の見晴らしが非常に良いという話を聞くので、そのような中で、LRT沿線の農地の「貸農園化」を進めてはどうか。農地の少ない市街地に住む方などが、平石地区の農地を借りて、そこで自然を楽しむ。そして休みの時には、鬼怒川に行って自然にまた触れる。そのような機会を作ってはどうか。

10年前に、私が地元でそのような話をした時に、農家の皆さんはまだ若かったもので、何を言っているのかという雰囲気だったが、最近話をしたところ、我々と一緒に高齢化が進んで、自分で農地をやっていくのも大変なので、面白いのではないかという話を聞くようになった。農家の高齢化ということも含めて、農家の人がより良い収入を得るために、貸農園という方策も一つではないかと思うので、考えていただきたい。

2つ目は、宇都宮市が鬼怒川にサイクリングロードを作って、自転車のまちを進めているが、そういう意味でも、LRTに乗って、鬼怒川に一番近い平石中央小学校の停留所の近くにレンタルサイクルの置き場を作っていただき、街中の人などが来て、鬼怒川にちょっと行けるような機会を作ってもらえれば、LRTに乗る人が多くなるのではないかと思う。LRTの鬼怒川の鉄橋のすぐ下に、自転車で来て、自転車を鬼怒川の堤防に押しあげられる良い階段ができた。橋よりも先に、一番最初にこれを作ってくれたので、宇都宮市はサイクリングロードに非常に興味があるものと思っている。

以上の2つについて、今後検討していただきたい。そのためには、行政と地域コーディネーターなどの専門の方、地域住民が一緒になって、外部からどのようにして地元以外の「交流人口」、地元と交流する外の人を呼び寄せるといった政策を、ぜひ考えていただきたい。宇都宮東部エリアの自然観光資源の活用を、様々な視点から検討していただきたい。

回 答	所管課： 農業企画課， 道路保全課， 交通政策課
------------	---------------------------------

【市長】

「カワラノギクを守る会」の皆様には大変お力をいただき、感謝申し上げます。

また、平石地区の皆様には、宇都宮市の農業を支えていただいている素晴らしい農業経営者の方がいらっしゃることに、改めて御礼を申し上げます。

まず、「貸農園」については、都市と農村の交流、また地域農業の活性化に繋がる取組であると認識している。宇都宮市では、市営による貸農園である「河内ふれあい市民農園」の運営や、農業者自らが「貸農園」を開設する場合に、農業委員会への申請等の支援に取り組んでおり、市営貸農園の一部については、民間企業のノウハウを活用した市民サービスの向上を図るため、民間企業への経営移譲を行ってきたところである。

御提案いただいた「平石地区のL R T沿線の貸農園」については、市営の「貸農園」を開設する予定はないが、引き続き、地域の農資源を活用した交流事業等に意欲のある農業者の皆様からの開設の御相談があった場合には、必要な支援をさせていただくので、農業企画課に御相談していただきたい。

また、L R Tの有効利用と地域観光資源の活用について、本市では、「東部地域の観光資源」である豊かな自然や水が生み出す野菜や果樹、酒蔵をはじめ、サイクリングロードや公園・緑地など、魅力ある数多くの資源が東部地域の賑わいや新たな魅力創出に繋がるよう、イベントや体験型ツアー等を開催する地域団体や民間事業者に対する補助制度を今年度新たに創設した。平石地区においても、新たな名物の開発が始まるなど、L R T開業に合わせて、交流人口の増加につながる観光誘客を図っているところである。

御提案のレンタサイクル場についてであるが、現在宇都宮市のレンタサイクルは、車両の適正管理や安全点検を実施し、貸出等を行うために、市内8カ所の市営駐輪場において管理人を配置し、運営しているところである。また、公共交通と自転車等の連携強化は重要であると認識していることから、端末交通のニーズが高いと見込まれる中心市街地やL R T沿線においては、シェアリングモビリティの実証実験を現在行っているところである。

今後は、市民をはじめ、観光誘客の取組や来訪者の状況を踏まえながら、利用者ニーズの把握にまずは努めていく。

引き続き、L R Tを契機として、平石地区の活性化に取り組んでいきたいと思うので、アイデア等を出していただきたい。

発言 2 土砂、大雨・洪水気象情報に適合した防止行動について

宇都宮市においては、日頃から防災対策に尽力いただき感謝申し上げます。

平石地区においては、令和4年3月に「平石地区防災計画」及び「平石地区自主防災会災害対策本部運営マニュアル」を策定し、地域の安全を守る共助の営みを進めてきた。

このような中、令和4年9月24日には平石地区などに土砂災害の危険性があるとして「警戒レベル4 避難指示」が発令されたが、事前に「警戒レベル3 高齢者等避難」が発令がなかったため、災害時要援護者支援制度の運用に支障をきたした。

そこで、1点要望する。

台風などの風水害時には、より早く、確実に災害時要援護者への支援対策をとることができるよう、気象情報などの情報を出来るだけ多く分析・活用し「警戒レベル4 避難指示」が発令に至る前に、余裕をもって「警戒レベル3 高齢者等避難」を発令する運用を行っていただきたい。

回答 所管課：危機管理課

【市長】

平石地区の皆様には、防災力の向上に向けて、大変お力いただき感謝申し上げます。

本年9月に、宇都宮市に被害をもたらした連日の大雨の際には、会長はじめ自主防災会、民生委員、消防団、自治会長の皆様におかれては、住民の安否確認また避難の呼びかけ、避難所開設などに大変なお力をいただき、重ねて厚く御礼申し上げます。

風水害時の避難情報についてであるが、防災気象情報や被害状況などを踏まえ、5段階の警戒レベルを用いて、段階的に発令する事を基本としている。

昨年9月24日の大雨の際には、大変皆様に御心配、御迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

本年9月の大雨の際と同様に、昨年9月の際には局地的な集中豪雨により、土砂災害の危険が急激に高まったことから、短時間のうちに「警戒レベル3 高齢者等避難」の発令基準を超える「警戒レベル4」相当の「土砂災害警戒情報」が宇都宮地方気象台と県から発表されたため、市民の皆様が身の安全を確保できるよう、速やかに「警戒レベル4 避難指示」を発令したところである。

地域の皆様においては、住民の避難の呼びかけを行うなど、迅速に対応していただいた。大変な御苦勞をおかけした。

今後とも、御指摘のように、市民の皆様が安心して避難できるよう、迅速な防災気象情報等の収集と適切な避難情報の発令に努めていくので、地域の皆様

においては、引き続き、地域防災力の向上に御協力をお願いしたい。

発言 3 平出工業団地公園について

平出工業団地公園については、平石地区住民の憩いの場として親しまれているが、現在は緑の相談所がなくなり、木が生い茂り、外側から公園内部が確認できない状態である。公園内には薄暗い場所が多く、子どもたちが遊ぶ遊具もあるのだが、子どもだけで遊ぶには防犯上好ましくない印象を受ける。

そこで、1点要望する。

せつかくの公園であるので、公園内の整備、特に樹木の剪定や雑草の処理に力を入れていただき、誰もが安心・安全に利用できる公園にしていきたい。

回答 所管課：公園管理課

【市長】

皆様には、防犯活動だけでなく安全・安心な地域づくりに御協力をいただき感謝申し上げます。

平出工業団地公園は、四季折々の景色が楽しめる樹木を活用した園内の散策路やバスケットコートが人気の公園となっており、そのため、定期的な巡回のほか、毎年2回の剪定、年3回の除草などの維持管理を行っている。

公園の樹木については、豊かな自然環境の創出や環境負荷の軽減に資する機能を有する重要な修景施設であることから、見通しの確保など利用者の安全に配慮しつつも、適度な緑を保つような剪定に努めているところである。今年度においても、既に5月と8月に2度実施した除草等に加え、11月以降にも繁茂している樹木の剪定や生垣の高さを抑制するための刈り込み、除草などを実施していく。

また、当公園は、供用開始から40年以上が経過し、一部の樹木が大きく生長し過ぎており、御指摘のような見通しの悪い場所が見られる状況であることから、園内の安全性や防犯性を高めるため、公園外周部を中心に、生長し過ぎた樹木の間引きや伐採を年内に実施していく。

誰もが安全に安心して利用できる公園を、これからも作っていききたいので、よろしく願います。

発言 4 辰街道、新4号線と岡本駅を結ぶ循環バス計画

LRTの開業、グッドフォーカス賞の受賞おめでとう。

先頃、LRTの開業に際し市長は、未来交通都市の発言や先の学術系会議では「赤字になっても社会や市民に必要な事は歯を食いしばって続けていく」「公共交通は福祉の時代に入っている」との報道があった。

私も間もなく、後期高齢者の仲間入りである。市長の「公共交通は福祉の時代に入っている」とした考え方に安堵したところである。それでは本題に入る。

平成27年、LRT事業について、平石地区の住民は当初計画の地区市民センターを最寄り駅とすべきか否かについて意向調査を実施し、85%の意向に反し、400メートルを隔てた平石中央小へとする案をやむなく受入れた経緯がある。

先頃、当地区市民センターで「別冊 乗ろうよ！平石エリアのみなさまへ」保存版、問い合わせ先：宇都宮市交通政策課とした冊子を目にし、平石地区の北部は、乗ろうよと言ってもそのマップが空白地帯であるのに唖然とした。

では、この冊子に掲載の計画は、いつ、地元でどのように合意形成されたかについても分からない。

加えて、このバス路線見直しのお知らせの回覧は、市の日付が8月3日、自治会の回覧が11日、そして26日の開業、27日にはバス路線の見直しである。あまりにも周知期間がなかった。

市はこれまでLRTが東西の基幹交通であり、その後に南北の整備として地域内交通等で補完するとの説明があったように記憶している。

そこで、かねてからの私案を以下の5つの観点から提案させていただく。

- ① JR岡本駅は県北から利用者が乗降することから、同駅東口を発着とした循環バスにより、平石中央小学校前でLRTに乗り換える、またその逆もある。
- ② この空白地帯の住民は1台の地域内交通を利用し、乗車ができない場合には増便も可としてきたが、高齢者にとって、定時運行は安心して利用できる交通手段の基本である。
- ③ ちなみに、国道4号線の三菱製鋼を通過するバス路線は御幸交番前から上野町方面へとなり、既に馬頭・喜連川方面は廃止された。去る8月のLRTの開業に伴い岡本駅とベルモール線（13往復）が新設され、宇都宮駅へは、ベルモールでLRTに乗り換えになった。
- ④ バス事業は、利用予測と採算性が原則であるが、広く等しく住民が利用できる公共交通手段として知恵を出し合い、バス事業者に補助金を充て運行している事例は全国に多々ある。
- ⑤ 近年、本市の交通計画はLRT利用者目線であったが、LRTの開業に伴い今般、辰街道の地区市民センター、東病院を経由しベルモール行き（左右回り13本）が新設されたが、この平出・ベルモール東循環線の新設が、市言う南北の整備とするバス路線なのか。

以上を踏まえ、岡本駅東口を発着とし、当面123号線までの辰街道と新国道4号線をループとした定時運行の循環バス導入の具現化である。これによりLRTも2カ所で乗降が可となり、新たに沿線商業施設も利用でき、ひいてはLRTの利用促進と岡本駅東口の関係自治会などと連携することにより、空白地帯解消にも繋がるものと考えている。本日の懇談会は、平石地区住民に将来的な夢と希望を語る場であることから、空白地帯の住民が希望の持てる施策を急ぎ検討願いたい。

回 答	所管課：交通政策課
------------	------------------

【市長】

平石地区の皆様には、自分達が主体となって交通を「つくり」、「まもり」、「育てる」という理念のもと、本格運行を開始してから7年目を迎える地域内交通「ひらり号」を運行していただいている。大変な御苦勞があるかと思うが、御礼申し上げる。

本市では、鉄道やLRT、バス、地域内交通が、輸送力や利用者数に応じて適切に配置された「階層性のある公共交通ネットワーク」を構築することで、公共交通ネットワークを将来にわたって維持・発展させていくことが可能になると考えており、これにより、誰もが移動しやすい社会の実現を目指しているところである。

本年8月のLRT開業と併せたバス路線の再編にあたっては、平石地区においても、再編後のバスの運行ルートや運行本数、運行時間帯などについて、令和2年度からまちづくり協議会の役員の皆様と意見交換を重ねるとともに、昨年12月には平石地区市民センターにおいて、そして本年2月にはベルモールなどにおいてオープンハウスを開催し、地域住民の方々と直接意見交換をすることに加え、こうした場所に来られない方を対象に自治会回覧による意見の募集を行うなど、広く意見を伺った上で、バス事業者とも協議・調整を行い、運行内容を決定したところである。

この再編により、平出工業団地を経由して岡本駅東口とベルモールを結ぶ「岡本駅東口線」を新設することで、国道4号線を運行するバスの運行本数を平日1日あたり2本から38本に大幅に増便し、LRTとの接続を強化するとともに、ベルモールを発着し、辰街道を南北に運行する「平出・ベルモール東循環線」を左右両回り新設し、両回りとも1時間に1本程度運行することで、LRTとの接続はもとより、平石地区内での移動利便性の向上を図ったところである。

また、平石地区を面的にカバーし、地域の皆様がよく利用している地区内の目的施設までをドア・ツー・ドアで運行する地域内交通「ひらり号」についても、運営組織の皆様と連携しながら、目的施設にLRTの停留場を追加したこ

とから、まずは、これらの公共交通を御利用いただきたい。

公共交通は、やはり主体の事業者の皆様が、継続してできないと意味がないので、事業者の方そして利用される平石地区地域の皆様の御意見をいただきながら、常に成長していくものであると思っている。「これで終わり」「これで決まり」ではなく、様々な御意見や新たに地域に引っ越して来ていただいた方の御意見、子どもたちも成長するので、それに合わせた協議は常に行っていく必要があると思っている。

今後も、広く皆様の御意見をいただきながら、より利用しやすい公共交通ネットワークの構築に取り組んでいく。

再質問	辰街道、新4号線と岡本駅を結ぶ循環バス計画
------------	------------------------------

私は、空白地帯をどうにか埋められないかという提案をしたのだが、先程の回答では、空白地帯については一言もコメントされてない。東循環線については私も分かっており、確認したところ毎日13本である。岡本駅から産業道路、ベルモールまでも13本である。その空白地帯をどうするかということについて回答を求める。

回 答	所管課：交通政策課
------------	------------------

【総合政策部長】

先程市長より回答したが、本市では、鉄道、LRT、バス、地域内交通が、それらの交通手段で階層性のある公共交通ネットワークを構築することで、市内全体の交通の利便性の向上を図っているところである。

今回LRTの開通に伴い、バス路線をかなり再編した。そのバス路線の本数なども大幅に増やしたところであるが、それでもカバーできないところについては、面的にカバーして、目的の場所までドア・ツー・ドアで行ける地域内交通を御利用いただくことで、平石地区全体の面的な移動が円滑にできるよう努めているところであり、今後も、そのような形で進めてまいりたい。

また、先程市長が申し上げたように、これからの利用状況などを踏まえ、適宜見直しを行っていくので、引き続き、公共交通事業への御協力をよろしく願います。

再質問	辰街道、新4号線と岡本駅を結ぶ循環バス計画
------------	------------------------------

市長と部長から回答をいただいたが、この空白地帯には一言も触れていない。地域内交通でカバーするでも何でもいいが、この空白地帯をどのように考えて

いるのかについてコメントをいただきたい。

回 答	所管課：交通政策課
------------	------------------

【総合政策部長】

線的な移動はLRTやバスで行っているが、それ以外の公共交通空白地帯については、面的な活用である地域内交通で対応していきたいと考えている。

発 言 5	平石地区の脱炭素社会を目指し全国に先駆けたモデル地区を目指して
--------------	--

脱炭素社会を目指す観点から提言をさせていただく。

再生可能エネルギーについて、冒頭に市長からお話があったが、地産地消は大変重要なものと思う。日本は自然エネルギーの活用が8.3%であり、EU諸国では40%を達成している国がたくさんある。火力や原子力発電に頼らない、太陽光発電や小水力発電システムの普及をすべきと考える。

そこで、以下1点提案し、1点質問する。

平石地区には若杉地区の高台約1,200坪以上の空地や、平出工業団地(クボタの東側)の広大な空き地がある。宇都宮市内には、このような空き地がたくさんあると思うので、その空き地をメガソーラーとして有効活用できる方策を検討してはいかがか。

また、平石地区は2,675世帯あるそうだが、とりあえず2,100世帯を目標に、太陽光発電システムの設置が進み、エネルギーの地産地消を実現する将来が来ることを期待している。平石地区において、太陽光発電システムの普及が進むために、有効な手段などを教えていただきたい。

回 答	所管課：環境創造課
------------	------------------

【市長】

本市では、脱炭素社会の構築に向け、「宇都宮市カーボンニュートラルロードマップ」において、国から選定されたLRT沿線における脱炭素先行地域の創出や、地域のポテンシャルを活かした様々な再生可能エネルギーの最大限の導入・活用などを「脱炭素加速化プロジェクト」として位置付けているところである。

冒頭でも申し上げたとおり、脱炭素化を進めるためには、再生可能エネルギーの普及拡大や、電力の地産地消は大変重要である。地域の皆様に、太陽光発電システムの導入に向けて高い関心を持っていただいていることに感謝申し上げ

げる。

御提案の「空き地をメガソーラーとして有効活用する方策」については、本市は、市内全域において電線に流すことができる電力量が一定制限される「系統連系制約」のエリアに該当しており、大規模な発電設備の新たな設置ができないエリアになっている。引き続き、電線を管理している東京電力パワーグリッド株式会社や国の動向を注視して、状況に応じ適切に対応していくなど、再生可能エネルギーの最大限の導入・活用に努力していく。

次に、「太陽光発電システムの普及に向けた有効な制度や方法」については、市民の皆様にも太陽光発電システムに関する理解や関心を深めていただけるよう、再生可能エネルギーの利用などの環境配慮行動によるCO2削減効果などを分かりやすく説明する「環境出前講座」の開催をはじめ、太陽光発電システムの購入に際しては、現在1キロワット当たり1万円、上限8万円の補助を実施している。これまで約13,000世帯の方に御利用いただいている。これは補助率も高く、続けている理由としては、宇都宮市は全国でも日照時間が長いという傾向があるので、太陽光発電等の電力を作るといった地域には打ってつけであると思うので、これを利用しない手はないということで、こうした補助制度を作っているの、ぜひ御利用いただきたい。

また、市民の皆さんが個人で費用を負担して、太陽光発電システムを設置する方法以外にも、市民が初期費用を負担することなく、御家庭の屋根などを民間事業に貸し出し、民間事業者が設置・管理する太陽光発電システムで発電した電力を購入する「PPA方式」や、事業者にもリース料を支払い、電力の自家消費や発電した余剰電力を売電することができる「リース方式」の仕組みもあるので、御家庭の状況に応じてぜひ御検討いただきたい。

今後とも、地域の皆さんと一丸となり、「カーボンニュートラルなまち うつのみや」の実現を目指し、次の世代のための脱炭素社会を作ってまいりたいと思うので、御協力をお願いします。

再質問	平石地区の脱炭素社会を目指し全国に先駆けたモデル地区を目指して
------------	--

特にEV車との連携については、市の方でも積極的に利用してPRしていただきたい。

回答	所管課：交通政策課
-----------	------------------

【市長】

本年度から、バス事業者のバスのEV化に対し、市も補助金を出して対応していきたいと考えているので、こういったものもさらに拡大をしていきたい。